

老人は大言壮語すべし夏

藤田湘子

湘子七十一歳の作。気持の上では若いと思いつながらも、すでに自分は七十過ぎの老人であると認めている。

だからこそ、自分で自分に言い聞かそうと「大言壮語すべし」と命令形を使い、「夏」の一語にピタリと鮮やかな着地を決めている。

今は戦争も兵役も無い。俳句の世界には女性が増え、一見数の上では隆盛に思えても、文学としての厳しさを失っては終わりである。嫌われようとも、笑われようとも未来を見据え、誰かが謹厳実直に意見や先見を吐かねば衰退は避けられないと思つたに違いない。

自分の死後、俳句の志を継げる者はどれだけいるのだろうか、問われているようでもある。